

中高一貫教育とは

中高一貫教育は、平成11年4月から制度化されたもので、これまでの中学校・高等学校に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指すものです。



学校教育においては、『ゆとり』の中で『生きる力』をはぐくむことを目指し、個性尊重という基本的な考えに立ち、一人ひとりの能力・適性に応じた教育を一層充実させることが求められています。

中高一貫教育はこうしたニーズに応え導入されました。

期待される効果として、次の4つが考えられます。

- ゆとりある安定した学校生活
- 個性の伸長や才能の発見
- 社会性や豊かな人間性の育成
- 効果的な教育の実現

- **校舎**：生徒が6年間の長期にわたりに在学するため、『ゆとりと潤いのある環境』という視点を重視。多目的教室など基準を上回る面積を確保するとともに、北海道の特色を出すよう校舎は、木造を多く取り入れた温もりのある建物として、現在、建設が進められている。
- **寄宿舎**：約100名収容するものとし、平成17年度に建設を予定。



▲寄宿舎（完成イメージ図）

平成19年4月1日

※開校時は、前期課程（中学校）1年生と後期課程（高校）1年生が入学する予定。

▼施設

今後は、学校の基本的な理念や教育目標、入学選考の方法、教育課程編成など具体的な『学校づくり』の準備が進められますが、その中心となるのは北海道教育委員会が新しく開設する『開校準備室』です。

現在、市は、この開校準備室を早期に開設するよう北海道教育委員会へ要請しています。

これまで中等教育学校の誘致にあたっては、多くの議論を経て、市民組織などからたくさんの方々の貴重な意見・要望をいただいております。市は開校準備室の設置を受け、これら意見・要望をもとに、主に次の観点に立つて開校準備室への協議・要請を行いたいと考えています。

▽北海道、胆振、そして登別の地域性や観光を生かした特色ある学校

づくり

▽個性を尊重した、一人ひとりの能力・適正に応じた教育

▽6年間を通じた学年間交流を通じ、社会性や豊かな人間性をはぐくむ教育の推進

▽グローバル化に対応できる国際理解教育の推進

また、市は、開校へ向けての通路の整備などを進めるとともに、地域市民団体・商工団体などで組織する『中等教育学校を支援する市民会議』を中心に、市民各層からのご意見・要望をいただきながら、地域に根ざした特色ある学校づくりに向けて、協議を進めます。

市民の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

開校に向けて準備が進んでいます

北海道登別青嶺高等学校

北海道立高等学校の適正配置計画に基づき、これまでの登別南高校の校舎を活用して新設される高校について、北海道は校名を『登別青嶺高等学校』とすることを昨年12月の道議会にて決定しました。

この北海道登別青嶺高等学校（以下『登別青嶺高校』といいます）は、登別高校と登別南高校を引き継ぐ高校として、これまで両校の生徒・卒業生や教育関係者によって築き上げてきた伝統の継承や、新しい校歌の

作成など、両校教職員の熱心な取り組みにより今年4月の開校に向けて準備が進められています。

登別青嶺高校の目指す学校像

- 伸び伸びとした高校生活
- 徹底した基礎学力育成（「積み上げる学力」がテーマ）
- 世界に羽ばたく広い視野の育成

- 地域と結びつき高い信頼関係
- 新しい学校は勢いを発散する（生徒の母船としてチャレンジする勇気を与えます。）

開校にあたっては、両校のPTAや同窓会、地域団体による記念事業協賛会の発足も決まり、生徒の多様なニーズに応え、この高校が地域に根ざした夢と希望のある学校となるよう、地域の期待は高まっています。

この特集に関するお問い合わせは

教育委員会総務課

☎1100
☎9744

Eメール：kyoisoumu@city.noboribetsu.hokkaido.jp